

3-1-1 人権・多様性の尊重



ありたい姿

出身、性別、年齢、国籍、障害の有無などにかかわらず、全ての人が認め合い、互いを尊重しながら、自分らしく生きることができる、誰一人取り残されない社会となっています。

現状

- ・近年、全国的に、インターネット上での誹謗中傷のほか、新型コロナウイルス感染症への感染や性同一性障害、性的指向などを理由とする偏見や差別といった新たな課題が表出しています。
- ・そのような中、市民意識調査の結果から、市民の人権意識は着実に高揚しているものの、同和問題（部落差別問題）においては、いわゆる「寝た子を起こすな」論^{*}や解決を他者に依存する風潮が今なお見受けられています。
- ・また、戦争体験者の減少に伴い、戦争について話を聞き、学ぶ機会が少なくなってきており、戦争の体験や歴史を風化させないために、戦争の体験談を始め、戦没者の遺品等の戦争関連資料をより多く収集し、保存・伝承していく必要があります。
- ・このほか、労働者を中心とした外国人世帯が増加しており、市内で暮らす外国人が安心して暮らせる環境づくりが求められています。

目標

- ・市民一人一人の基本的な人権が尊重され、人権侵害が解消されています。
- ・戦争体験等が伝承されるとともに、お互いを認め、尊重し合うことが平和の基礎であるという意識が浸透しています。
- ・様々な場面で外国人市民の受入環境が整うとともに、国際交流を担う次代の人材が育成されています。
- ・ユニバーサルデザイン^{*}の考え方に基づいたハード面の整備が進むとともに、相手の立場に立った思いやりのある行動をとる心のユニバーサルデザインの考えが身についています。

成果指標

項目	現状値	R8 中間目標値	R12 目標値
人権・同和問題に関する正しい理解度 (上越市人権・同和問題に関する市民意識調査)	67.1% (R2)	70.0%	75.0%
平和展来場者数	1,395人 (R4)	1,500人	1,650人
外国人市民との共生に関する正しい理解度 (上越市人権・同和問題に関する市民意識調査)	37.7% (R2)	44.0%	50.0%
市施設の「公共建築物ユニバーサルデザイン指針 [*] 」の適合率	67.2% (R3)	71.0%	75.0%

施策の柱

1 人権・非核平和の推進

- ・市民や企業等の人権・同和問題に対する関心や理解を深め、憲法で保障される基本的人権を守るため、市民セミナーや企業研修会を開催するとともに、人権教育や同和教育の実践を積み重ねるほか、教職員に対して現地学習の機会を提供します。
- ・市民に戦争の悲惨さや平和の尊さを伝えるため、平和に関する学習や平和展の開催のほか、平和記念公園・展示館を通じて平和啓発に取り組みます。

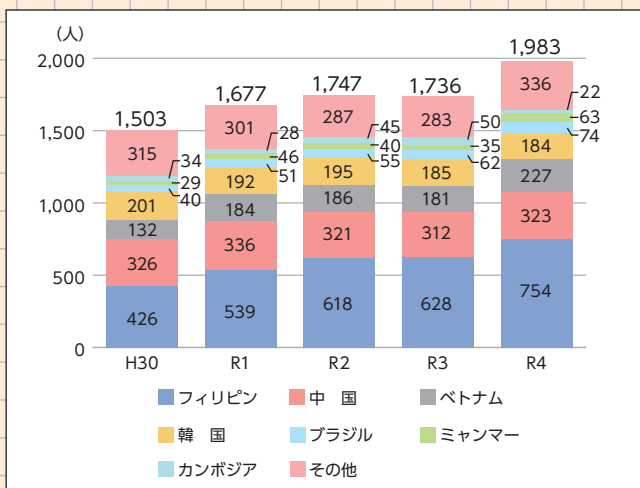
2 多文化共生の推進

- ・外国人市民が社会生活で抱える様々な課題を解消するため、関係団体等と連携し、情報提供や相談対応等の支援を行います。
- ・互いの文化や風習等の違いを理解し、安心して暮らせる環境を整えていくため、多様な言語ツールを活用した情報伝達のほか、国際理解のための啓発活動に取り組みます。
- ・多文化共生社会の実現を図るため、海外の友好都市との交流などを通じて、国際感覚が豊かな人材を育成します。

3 ユニバーサルデザインの推進

- ・障害の有無や年齢、性別、言語などの違いにかかわらず、誰もが安全に安心して快適に暮らしていけるよう、市の施設へのユニバーサルデザイン*の反映と事業者への普及・啓発を行います。
- ・ハード面の整備を補完する意図からも、多様な人がいることを前提とした思いやりや助け合いの精神を育む、心のユニバーサルデザインを推進します。

●主な国籍別の市内外国人数



▲外国人市民と小学生の交流

出所：上越市多文化共生課（住民基本台帳を基に作成（各年12月末現在））

3-1-2 男女共同参画の推進



ありたい姿

性別にとらわれず、社会のあらゆる場面において一人一人の意欲と個性が発揮される環境や支援体制が整い、平等に多様な活躍ができる社会が形成されています。

現状

- ・近年、社会的な潮流として、市民の男女共同参画^{*}に対する意識は高まりつつあるものの、性別による固定的役割分担意識が残っていることから、男女共同参画に関する活動の裾野を広げていくためには、多くの幅広い人たちが問題意識を持ち、男女共同参画の必要性を理解することが求められます。
- ・また、女性の社会進出の進展により、就業や生活など様々な場面において、男女の賃金格差やコロナ禍^{*}で増加するDV^{*}などの新たな問題の発生や課題の複雑化・多様化が懸念されています。
- ・当市においても、性別による固定的役割分担意識が残っていることが女性の社会進出を妨げる一因となっているほか、設置している女性相談窓口は、認知度が低い状況となっています。

目標

- ・あらゆる分野・あらゆる世代において、性別による固定的役割分担意識の解消や女性参画・女性活躍の推進に向けた市民の意識が醸成されています。
- ・市民・企業向けの各種講座が多く開催されるなど、男女共同参画社会を推進する団体活動が活発になっています。
- ・女性相談窓口の認知度や相談員のスキル向上、関係機関との連携の強化が図られ、相談者への迅速・適切な支援が行われています。

成果指標

項目	現状値	R8 中間目標値	R12 目標値
男女の地位の平等感 (上越市男女共同参画に関する市民意識調査)	23.3% (R3)	30.0%	40.0%
子育て中の女性の就職率	39.9% (R3)	46.0%	50.0%
管理職に女性を登用している民間企業の割合 (上越市男女共同参画に関する市内事業所アンケート)	47.0% (R3)	50.0%	60.0%
市の女性相談窓口の認知度 (上越市男女共同参画に関する市民意識調査)	13.1% (R3)	20.0%	30.0%

施策の柱

1 男女共同参画意識の向上

- ・性別にかかわらず互いの人権を尊重し、個人が持つ個性や能力を十分に発揮できる男女共同参画社会*の実現に向け、幅広い分野の多くの人たちに向けて意識啓発を行います。

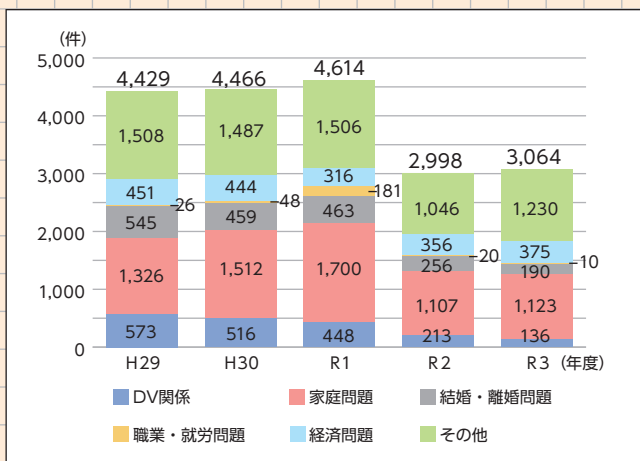
2 女性活躍・女性参画の促進

- ・女性の経済的自立や人材育成など職業分野に限らず、あらゆる分野において男女共同参画の視点を持って女性の活躍促進に取り組みます。
- ・性別にとらわれず、やりがいや充実感を感じて働きながら、家庭、育児、介護等に参画できるよう、ワーク・ライフ・バランス*を推進するとともに、特に男性の育児休業の取得等による育児への積極的な参画の促進に向け、市内事業者等へ各種制度の周知や意識啓発に取り組みます。

3 相談支援体制の充実

- ・女性相談窓口の周知を図り、市民が気軽に相談できる場を提供します。
- ・相談内容の複雑化・多様化に対応するため、関係機関と連携・協力した対応体制の強化に取り組みます。

●市女性相談窓口への相談件数



出所：上越市男女共同参画推進センター



▲男女共同参画出前講座



▲アンコンシャス・バイアス(無意識の思い込み)パネル展

3-1-3 若者が活躍できる環境づくり



ありたい姿

若者一人一人の夢や希望をかなえるためにチャレンジできる環境が整い、若者同士の交流から新たな出会いやアイデアが生まれ、まちづくりの主体として活躍しています。

現状

- ・当市においては、10代後半から20代前半までにかけて、進学や就職を機に市外へ転出する若者が多いことや、若年層の女性の減少や婚姻率の低下、晩婚化により出生数が減少していることなど、様々な要因が複合的に重なり合う中で人口減少が進行しています。
- ・また、市内では、高齢化や人口減少の影響により、まちづくりの様々な分野において担い手不足が顕在化していることから、若者が希望をかなえることのできる環境を整え、その活力をまちづくりにいかしていくことが求められています。

目標

- ・若者が自らの夢や希望をかなえるために挑戦しようとする機運が高まっています。
- ・学生や若者の「ふるさと上越市」への理解と愛着が高まる中で、若者同士の交流による新たな出会いやまちづくりの取組が生まれています。
- ・市外に居住する若者や子育て世帯等のUIJターン*に向けた関心が高まっています。

成果指標

項目	現状値	R8 中間目標値	R12 目標値
今後も上越市に住み続けたいと感じている 20代・30代の割合 (上越市市民の声アンケート)	64.9% (R4)	70.0%	75.0%
上越市に愛着があると感じている 20代・30代の割合 (上越市市民の声アンケート)	67.0% (R4)	72.5%	75.0%
地域活動や市民活動に参加している 20代・30代の割合 (上越市市民の声アンケート)	31.0% (R4)	35.0%	40.0%

施策の柱

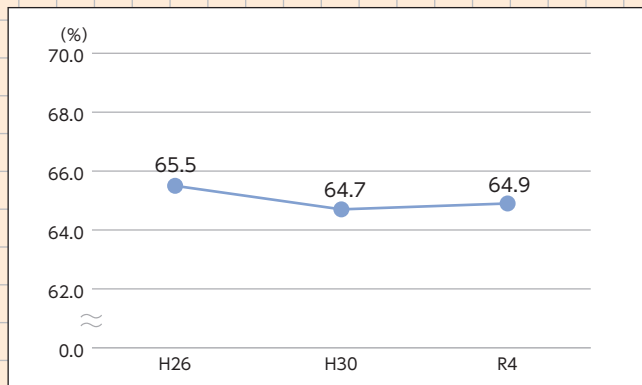
1 生活支援の充実

- ・公共交通機関を利用して市外の大学等に通学する学生に対し、通学費を奨学金として貸し付けます。
- ・市内で生活する若者に対し、各種奨学金の返還を支援する取組を進めます。

2 交流機会の創出

- ・市内に在住・在学する高校生に対し、まちの魅力を知らせてもらう機会を創出することにより、「ふるさと上越市」への理解と愛着を深めます。
- ・将来的なUIターン[※]に向け、SNS[※]を通じて当市の魅力や子育て環境、仕事に関する情報発信を行います。
- ・意欲ある若者の人材発掘・育成と若者のまちづくりへの参画に向けて、活動の活性化を図るため、若者同士の交流を促進します。
- ・結婚を希望する人に寄り添った支援を行うため、意識啓発や相談支援、出会いの場の提供などの取組を検討します。

●今後も上越市に住み続けたいと感じている20代・30代の割合



出所：上越市総合政策課（上越市市民の声アンケート）



▲高校生PR映像コンテストの撮影風景



▲若者が市外団体の取組や事例を学ぶ研修会

基本目標3 誰もが活躍できるまち

3-2-1 コミュニティの充実



ありたい姿

人と人、人と地域のつながりが育まれる中で、市民、事業者、団体などがまちづくりの主角として、地域で抱える課題を「自分事」として捉えて行動し、地域の暮らしの安心感や活力が高まっています。

現状

- ・人口減少や少子高齢化の進行などにより、地域の活動を企画、実行する人材や団体等の担い手が減少する中、地域の防災や福祉、生活環境などにおいて様々な課題が顕在化しています。
- ・また、人口動態や世代間の価値観の差の拡大などにより、地域や町内会のつながりが希薄化し、コミュニティの維持が困難になってきています。
- ・このほか、地域自治の仕組みの下、地域自治区*単位で住民同士の支え合いや活気を生み出す活動が展開されていくことが期待されているものの、地域自治区単位での自主的な活動は一部の地域にとどまるなど、市全域への広がりには限定的となっています。

目標

- ・市民が地域に愛着と誇りを持って地域のために活動し、生活の質の向上や満足感の高揚が図られています。
- ・町内会を始めとする地域コミュニティ組織や地域で活動する市民団体が、地域の課題解決や地域振興に向けて、主体的に活動しています。

成果指標

項目	現状値	R8 中間目標値	R12 目標値
地域おこし協力隊*の定住率（累計）	40.0% (R3)	47.0%	53.1%
地域活動や市民活動に参加している市民の割合（上越市市民の声アンケート）	40.8% (R4)	45.0%	50.0%
集落や町内会などの地域コミュニティ活動が盛んであると感じている市民の割合（上越市市民の声アンケート）	55.8% (R4)	60.0%	65.0%

施策の柱

1 地域を担う人材育成

- ・地域に愛着や誇りを持ち、意欲を持って活動する人材・担い手を継続的に確保するため、先進的な取組を行っている人や団体、関係機関等と連携し、それらの各取組の成果・魅力を発信するとともに、関心や意欲を持つ人への相談や学習機会の提供等により能力・技術の向上を支援するほか、取り組む人同士のネットワークづくりなどを進めます。
- ・地域住民や関係者とともに課題解決等に取り組む人材を地域おこし協力隊員^{*}として採用するなど、地域に根付き、力になってくれる人材を誘致・育成します。

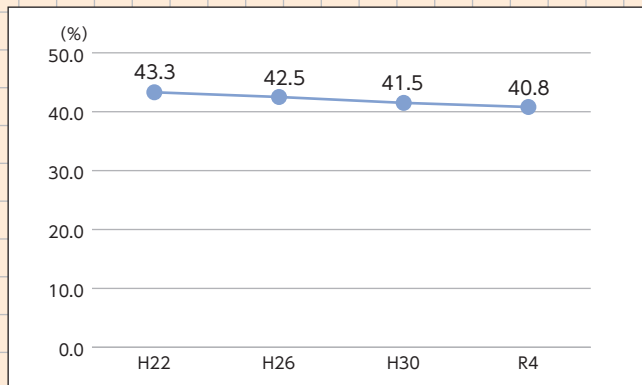
2 地域自治の推進

- ・地域特性を踏まえた自主自立のまちづくりに向け、市民と行政が協力し、先進的な事例等を研究しつつ、上越らしい地域自治の在り方を話し合っていく中で、身近な地域の課題をより良い形で解決するための仕組みづくりに取り組みます。

3 地域コミュニティ活動の活性化

- ・地域コミュニティを維持し、活動の活性化を図るため、町内会を始めとする地域コミュニティ組織等に対し地域の課題解決や活性化に向けた話し合いを働きかけるなど、地域の主体的な活動を支援します。

●地域活動や市民活動に参加している市民の割合



出所：上越市総合政策課（上越市市民の声アンケート）



▲市民団体主体の地域活性化の取組（安塚区：天空の里づくり推進事業）



▲地元の方と協力して田植えを行う地域おこし協力隊員（柿崎区）

3-2-2 多様な市民活動の促進



ありたい姿

個人やNPOを始めとする市民活動団体^{*}などの多様な主体がそれぞれの強みを出し合い、積極的にまちづくりに関わり、様々な活力や新たな価値を生み出しています。

現状

- ・個人の価値観や生活スタイルの変化に伴い、複雑化・多様化する市民ニーズに対し、行政だけで対応することが難しくなっています。
- ・また、少子高齢化の進行や定年年齢の延長等に伴い、市民活動を行う人が固定化し、市民活動団体の担い手が減少する傾向が見られています。
- ・加えて、人的な課題のみならず、資金面においても活動の継続に支障を来しており、これから活動したいと思う人が活動に参加しやすい環境づくりが必要となっています。
- ・このほか、市政情報の伝達においては、スマートフォン等の情報端末の普及により、直接市民に届ける仕組みが整う一方で、その所有や情報リテラシー^{*}の有無により、市民の間で情報格差が生じています。

目標

- ・多様な主体が地域の課題解決などに取り組み、連携・協働^{*}する姿が見られます。
- ・地域や社会を良くしたいと思う意識が高まり、市民活動やボランティアに参加する人が増えています。
- ・市政情報を様々な媒体を通じて適時適切に市民に伝え、また、市民も欲しい時に望む方法で入手できる環境が整っています。

成果指標

項目	現状値	R8 中間目標値	R12 目標値
NPO・ボランティアセンターの市民活動団体の登録団体数（累計）	250団体（R3）	253団体	255団体
地域活動や市民活動に参加している市民の割合（上越市市民の声アンケート）〔再掲〕	40.8%（R4）	45.0%	50.0%
紙媒体、市ホームページ、スマートフォンアプリを通じて広報上越を読んでいる人の割合（広報上越に関するアンケート）	85.2%（R4）	92.6%	100.0%

施策の柱

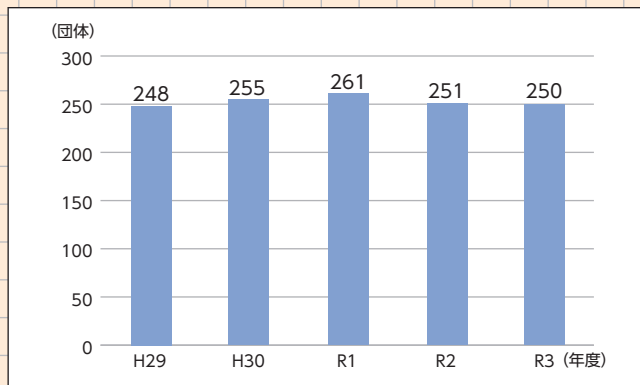
1 市民活動の支援

- ・市民が自主性と主体性を持ち、身近な分野の公共的な課題を解決する行動を起こしやすいよう、市民活動やボランティアに関する情報の収集・発信・コーディネートなどにより、参加する人の裾野を広げるとともに、様々な市民活動の促進を図ります。
- ・地域を挙げて地方創生を推進するため、民間団体や事業者等による取組を支援します。

2 市民参画と連携・協働の推進

- ・市民や市民活動団体^{*}による公共的な課題の解消に向けた取組に対して、必要に応じて連携や協働^{*}の手法が適切に用いられるよう、市民と行政双方が意見交換しやすい環境づくりを進めます。
- ・各広報媒体の特性をいかし、効果的に組み合わせながら、市政情報を必要とする市民へ適時適切に発信するとともに、広聴の取組を推進することにより、市民と市政に関する情報の共有化を図り、市民がまちづくりに参画しやすい環境づくりを進めます。あわせて、把握した市民の意見やニーズを基に、市の施策の立案や改善につなげます。

● NPO・ボランティアセンター市民活動団体の登録団体数



出所：上越市地域政策課



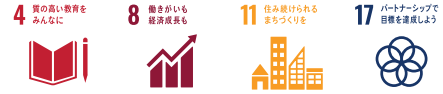
▲NPO・ボランティアセンターの相談窓口



▲市民と市長との対話集会

基本目標3 誰もが活躍できるまち

3-2-3 つながりの創出・拡大



ありたい姿

地域住民のみならず、個人、企業、大学といった、多様な主体による支え合いによって、地域の暮らしと文化が継承されるとともに、その関わりを通じて、地域に愛着や誇りを感じ、当市を好きになる人や応援する人、移住する人が増えています。

現状

- ・市では、家族や地域を軸とした人と人、人と地域コミュニティのつながりの強化に取り組んできたものの、人口減少や少子高齢化の急速な進行により、まちづくりの各分野において、担い手不足が顕在化しています。
- ・また、地域においては行政サービスだけでは対応できない生活上の課題が発生しており、地域住民のみならず、地域外の個人、企業、大学などといった多様な主体が関わり、支援する体制の充実が求められています。
- ・さらに、コロナ禍^{*}を機に、テレワーク^{*}を始めとした働き方の変化やライフスタイルの多様化が進み、地方移住の関心が高まっているものの、当市においては、人口の流入を強く実感できる状況には至っていません。

目標

- ・多様な主体の関わりと支え合いによって、地域の課題解決や活性化が図られ、地域の暮らしやすさが向上しています。
- ・当市の魅力や住みやすさを認識し、就職や結婚、出産などを契機にU/Iターン^{*}する若者や子育て世帯が増えています。

成果指標

項目	現状値	R8 中間目標値	R12 目標値
中山間地域支え隊 [*] の登録数（企業・団体・個人）及び派遣人数（年間延べ人数）	登録数：34件 派遣人数：218人 (R3)	登録数：49件 派遣人数：308人	登録数：61件 派遣人数：380人
越後田舎体験 [*] の受入人数	2,576人 (R3)	3,300人	4,000人
大学との連携による地域の課題解決・まちづくりの新たな取組件数	6件 (R1-R3累計)	12件 (R5-R8累計)	25件 (R5-R12累計)
市の移住関係制度等を利用した移住者数	86世帯 133人 (R3)	180世帯 279人	197世帯 305人

施策の柱

1 支え合い体制の強化

- ・ 中山間地域における地域貢献活動に賛同する企業や団体など多様な主体が参加するボランティアを派遣し、集落への労力支援を行います。
- ・ 集落づくり推進員^{*}が人口減少や高齢化が進む集落を巡回し、地域住民と将来像を話し合いながら、把握した課題の解決に取り組みます。
- ・ 地域社会は地域で支えるという意識を高め、生活支援コーディネーター^{*}を配置するなど、高齢者自身が地域の支え手となる仕組みづくりに取り組みます。

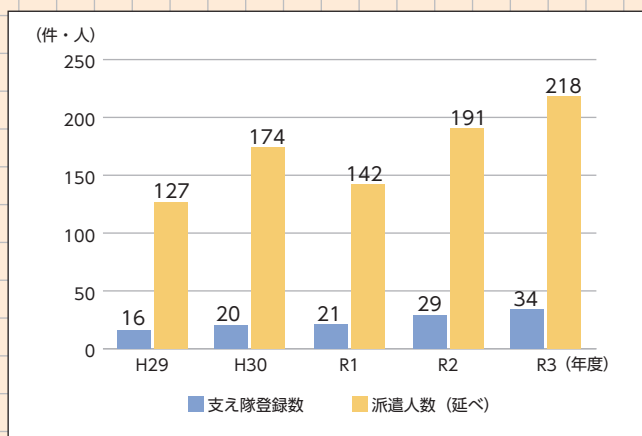
2 関わりの創出・拡大

- ・ 大学が有する専門的な知見と学生の活力を地域の課題解決と活性化につなげるため、市内外の大学と地域との連携に取り組みます。
- ・ ニーズを捉えた魅力的な体験プログラムの造成を行い、ものづくり体験や農業体験等の受入環境を整備するとともに、関東、関西、近隣他県等の旅行会社や学校等への営業活動に取り組みます。

3 移住定住の推進

- ・ 本市が移住先として選ばれるよう、SNS^{*}等を活用し、地域の魅力や充実した子育て支援策等を広く情報発信するとともに、丁寧な相談対応や移住体験に取り組むほか、家賃補助や住宅の取得費補助、空き家を利活用する支援制度などを活用し、移住定住の推進に取り組みます。

●中山間地域支え隊の登録数及び派遣人数



出所：上越市地域政策課



▲地元の方と話し合う集落づくり推進員（板倉区）



▲中山間地域支え隊による支援活動（名立区・側溝清掃）